

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名 静岡県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	掛川市立東中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	6	6	2	19	34
生徒数	169	202	230	9	610	

研究の概要

1. 研究主題

「学ぶ喜び」に満ちた学校

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科  
 主学年・主教科で、子供の「学び」を授業の中心にすえて実践することによって、「確かな学力」が向上していくという仮説に立った研究に取り組むため。

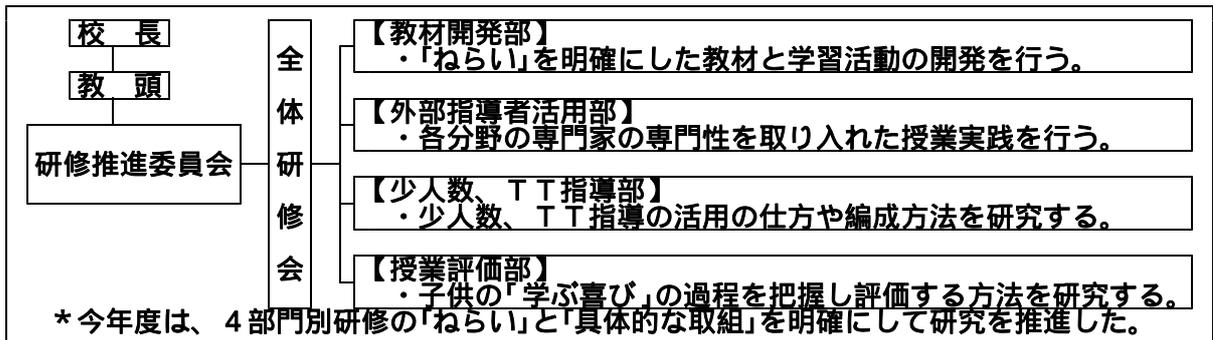
(2) 年次ごとの計画

平成14年度  
 テーマ  
 子供の側に立ったわかりやすい授業の実践  
 研究の見通し(仮説)  
 子供の「学び」を授業の中心にすえて、子供の側に立ったわかりやすい授業を実践していけば、学習内容の本質がわかり、「学ぶ喜び」を実感することによって、「確かな学力」が向上していくであろう。  
 研究の内容・方法  
 授業実践の具体的な方策として以下の4点を提示し、「公開授業」を通して、子供の理解や習熟の程度に応じた指導方法や指導体制を工夫改善していく。  
 ・「聴き合う」関わりを大切にされた授業の実践  
 ・わかったことを互いに表現し合い検討する活動を取り入れた授業の実践  
 ・作業や体験的な活動を取り入れた授業の実践  
 ・小集団活動を取り入れた授業の実践

平成15年度  
 テーマ  
 子供の側に立ったわかりやすい授業の実践  
 研究の見通し(仮説)  
 子供の「学び」を授業の中心にすえて、子供の側に立ったわかりやすい授業を実践していけば、学習内容の本質がわかり、「学ぶ喜び」を実感することによって、「確かな学力」が向上していくであろう。  
 研究内容・方法  
 昨年度に実践した具体的な方策の成果と課題を受け、子供に「学ぶ喜び」を実感させ「確かな学力」を向上させていくために、研究内容を4部門(「教材開発部」、「外部指導者活用部」、「少人数、TT指導部」、「授業評価部」)に分ける。そして、職員を各部門に配置し、各部門の「ねらい」と「具体的な取組」を子供の「学び」と関連させて明確化し、研究実践に取り組んでいく。

平成16年度  
 テーマ  
 「学ぶ喜び」に満ちた学校  
 研究の見通し(仮説)  
 子供の「学び」を授業の中心にすえて実践していけば、学習内容の本質がわかり、「学ぶ喜び」を実感することによって、「確かな学力」が向上していくであろう。  
 研究内容・方法  
 授業評価を生かした指導や個に応じた教材開発を進めるとともに、課題づくりを通して、子供の「学び」の質を高める指導方法や指導体制をより一層充実させていく。また、同じ地域の学校とネットワークをつくり、個に応じた授業実践の成果を共有していく。

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- (1)「授業の満足度アンケート」(7月に実施 5点満点)で、少人数指導を行った2年生数学が、3.7(昨年度3.4)、3年生数学は、3.8(昨年度3.8)、1年生英語は、4.0(昨年度3.9)と高く、子供に学ぶ楽しさや喜びが実感されてきた。
- (2)「少人数指導についての学習調査」(7月に実施)で、「少人数指導の良いところ」を調査した結果、1年生英語、2年生数学、3年生数学とも、「自分の意見を言いがやすい」「質問しやすい」「わかりやすい」「積極的に質問できる」という意見が上位を占め、子供の学習意欲に高まりがみられた。
- (3)「教材」と「身につけさせたい力」「子供の思い」とのつながりをとらえ、子供をどのように変容させたいのかという具体的な姿を明確にした授業実践を行うことによって、子供が活発に話し合いに参加する姿が見られ、「学ぶ意欲」や「考える力」が高まった。
- (4)外部指導者が持つ技術の専門性に触れたり、地域ボランティアの支援を受けたりする「作業や体験的活動」を行うことによって、子供が実感をともなった理解ができ、学ぶ意欲が高まった。
- (5)少人数指導を実施している2、3年生の数学では、昨年度の成果と課題を受けて、単元によって生徒の希望による習熟度別コースを編成したり、各学級でT.T指導したりすることによって、一人ひとりのつまずきに対応する指導や支援ができ、子供ができた喜びを味わうことができた。
- (6)評価カードを利用し、自分の意見が変わる過程を記述することによって、「わかったこと」や「次に追究したいこと」が明らかになり、意欲的な学習に結びついた。
- (7)各部門を通して、「学び」を深めるための指導方法や指導形態の工夫改善を話し合うことができ、授業改善に対する職員の意識改革が進展するとともに、組織の活性化にも結びついた。

### 2. 今後の課題

- (1)各部門のつながりを明確にして、子供の「学ぶ喜び」を深めていく手だてを総合的に有機的に関連づけて研究する。
- (2)少人数指導のコース別の教材開発を一層進めるとともに、個人差に対応する指導方法を研究する。
- (3)「授業の満足度アンケート」「少人数指導についての学習調査」の継続を含め、「確かな学力」の向上を定量的に測る評価方法を研究する。

### 学力把握のため学校の取組

- ・定期的な学力定着度テストの実施(年5回5月、6月、10月、11月、2月)生徒の学力の定着を定期的に測るため。
- ・「授業の満足度アンケート」「少人数指導についての学習調査」の実施(年2回7月、3月)生徒の「学ぶ喜び」を定量的に測るため。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年11月20日に県内外の小・中学校教員、教育委員会指導主事等の参加を得て、学力向上フロンティアスクール中間発表会を行い、研究成果を公開した。
- ・平成16年度研究会の開催予定  
〔日時:平成16年11月5日(金) 場所:掛川市立東中学校、テーマ:「学ぶ喜び」に満ちた学校(予定) 対象:中部教育事務所管内及び近隣の小・中学校教職員、講師:埼玉大学助教授 庄司康生先生、他〕
- ・学力向上フロンティアスクールとしての研究成果は、<http://www.ed.kakegawa-net.jp> で公開している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T.Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫に関わる加配の有無】		有	無	